

特集

松浦党の星 ほんもん体験

ほんもの体験日本一のまちづくり

平成14年に発足した松浦体験型旅行協議会が、初めて修学旅行生を受け入れたのが平成15年5月。島民280人の青島に100人の修学旅行生がやってきました。

あれから5年、松浦体験型旅行協議会は着実に受け入れ人数を伸ばし、今年度は15,000人を受け入れるまでになりました。

今月号では、体験型旅行の「はじまりから今」を紹介します。



HONNAMONTAIKEN

交流人口拡大への取り組み

交流人口拡大に向けた取り組みのはじまりは、平成8年4月にさかのぼります。当時、どのような取り組みがなされ、どのようにして体験型旅行へと関心が高まっていったのでしょうか。

松浦体験型旅行のはじまり

長崎県北部と佐賀県西部地域では、民間主導による広域のかつ総合的地域づくりとして「海洋クラスター都市構想」を進める取り組みが行われてきました。クラスターとは「ぶどうの房状」という意味です。この房は6つの地域から構成されています。そのひとつである旧松浦市・福島町・鷹島町は平成8年4月に松浦クラスターを設立し、「新産業創出事業」と「交流人口拡大」をテーマに活動してきました。

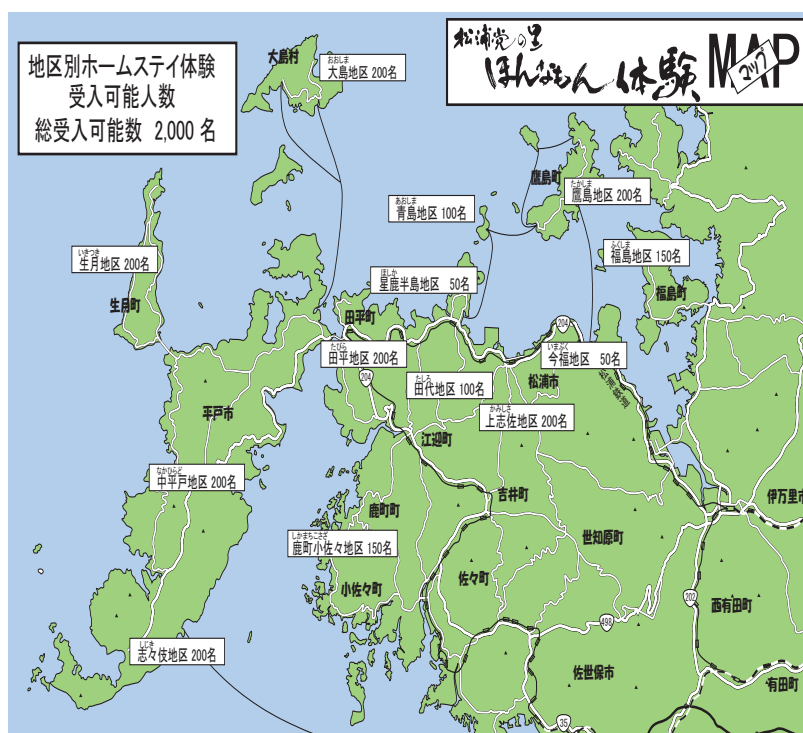
一方、平成12年3月に体験型旅行誘致事業が紹介された会合に出席していた当時の市長は、交流人口拡大

には体験型旅行が有効ではないかと考え、松浦クラスターとともに検討を進めました。地元で講演会を開催したり体験型観光の先進地視察を行ったりする中で、松浦市でも十分に成功の可能性があると判断。平成14年1月、会員約80人で推進組織「松浦体験型旅行協議会」を発足し、全国へ向け営業活動を開始しました。

動き出した

松浦体験型旅行

平成15年5月、初めての修学旅行生として高校生100人を青島に受け入れました。この青島での受け入れが大変好評だったことにより、その秋には17年度春



の予約が殺到しました。その後も人材育成などの受け入れ体制を充実させ、年々受け入れ人員は増加しています。

現在市内では、青島体験振興会、上志佐体験型振興

会、田代地区グリーン・ツーリズム研究会、星鹿半島体験振興会、今福体験振興会、鷹島体験振興会、福島体験振興会の7団体が受け入れを行っています。